



日本生態学会における男女共同参画および若手支援の取組

日本生態学会 キャリア支援専門委員会

若手支援

◆フォーラムの開催

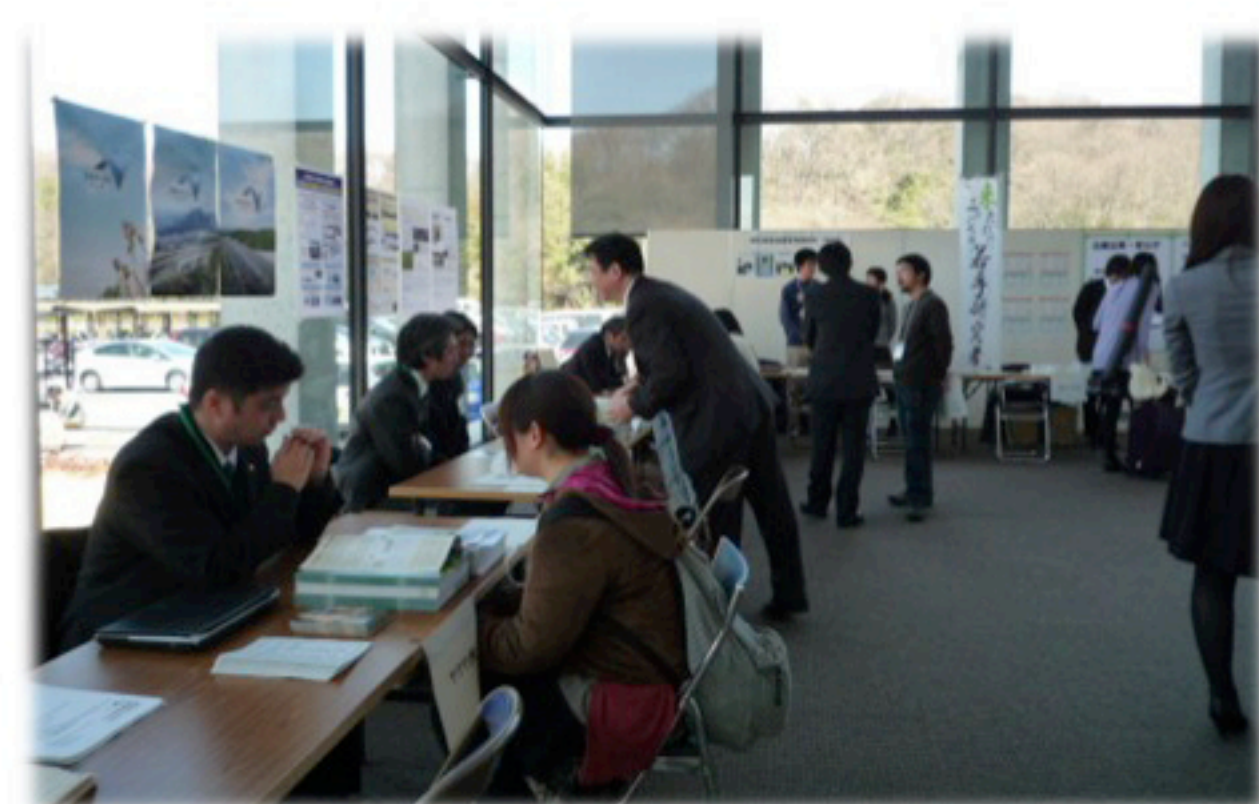
2008年より全国大会時に男女共同参画と若手支援をテーマにしたフォーラムを開催している。さまざまな立場にある会員による話題提供をとおして、会員の男女共同参画に関する意識を高めるとともに若手支援のための課題と方策について考える機会を提供している。

- 2013年 「若手研究者のキャリアパス支援
—生態学で学んだキャリアを活かす—」
博物館、高等学校、環境省で活躍されている3名の方を招き、生態学を学んだキャリアをどのように活かすことができるのかを紹介していただいた。
- 2012年 「若手研究者のキャリアパス支援
—民間企業・自治体でキャリアを活かす—」
生物多様性や環境保全を視野に入れた活動を展開している企業や自治体の担当者に話題提供してもらい、「生態学を学んだキャリアパスをどのように活かすか」をテーマに活発な議論がおこなわれた。
- 2011年 「若手研究者のキャリアパス—就職先の多様化と将来性」
民間企業に就職した博士と、博士を採用している企業の双方に話題提供をしてもらい、民間企業への就職の可能性と将来性について議論した。
- 2010年 「若手のための学位取得後のキャリア支援」
大学の助教や国立研究所のポストクなどの採用の際の審査・評価のポイントなどについて情報を提供。
- 2009年 「若手のための学位取得後の多様なキャリアパス支援」
ノンアカデミックなキャリアパス会員による話題提供と、グローバルCOEでのポストクのキャリア支援事業の紹介を通して、生態学分野での若手の活躍の場の将来性と可能性について議論した。
- 2008年 「男女共同参画から若手支援へ」
“育児も研究も” “アカデミックキャリアを目指そう”という2つのテーマの下、生態学分野での男女共同参画の推進と若手支援のための課題と方策について議論した。

◆企業説明会の開催

2012年・2013年の全国大会時に、企業ブースを設置し、説明会や資料展示をおこなった。ポストク・大学院学生の採用に興味を持つ企業・官公庁16社のブースが設置され、うち10社では人事担当者が来場し参加者と面談をおこなった。

大会期間中80名を越える学生が訪れ、熱心に担当者から話を聞いていた。出展企業・官公庁へのアンケートでは、大変有意義であり来年以降も出展したいという回答が得られ、出展側にも好評だった。



今後いかに出展企業を増やすかという課題があるが、今後も継続して企業ブース・説明会を実施していく予定。

◆若手会員からの声

(フォーラムや企業説明会参加者アンケートから一部を抜粋)

- * 生態学の知識を活かせる職業が意外と多い事がわかってよかった。
- * 生態学の専門性を活かした仕事に関する情報が欲しい。
- * どのような人材・能力が求められているかがわかって良かった。
- * 参加企業を増やして欲しい。
- * 実際に企業の方と交流を深めることができて有意義だった。

男女共同参画

◆託児室

第46回大会(1999年)では有志による託児室の設置、続く第47回大会(2000年)では大会本部により託児室が設置された。第48回大会(2001年)では学会として継続して託児室を設置するという方針が全国委員会と総会で確認され、以後、毎年開設している(これまでの利用者数は下図の通り)。



▲託児の様子(2008年福岡大会)



◆ファミリー休憩室 new!

第60回大会(2013年)に乳幼児や小学生連れの大会参加者が**予約なし・無料**で利用できる「ファミリー休憩室」を新設。利用人数は延べ家族数19、延べ子ども数27。大変好評で今後も継続することとなった。

◆女子中高生夏の学校

年	実験題目	参加者
2008年	野鳥の森の自然観察	16名
2009年	河辺の生態系を観察しよう	9名
2010年	水辺の生態系を観察しよう	17名 (中学生4名、高校生13名)
2012年	水辺の生態系を観察しよう	
2013年		



▲ソーセージのようなガマの花序の観察



▲シロダモの年輪を計測。スギより若いことがわかる。

「野鳥の森」をフィールドとし、河川沿いにはどんな植物がいて、どんな生活を送っているのか、そして、現在の森や草原がどのように成り立っているのかを、参加者と共に考えるプログラムを提供している。